



新聞広告やクラウドファンディングで立体的に広報展開 即興北斎大だるま再現 大盛況

ちょうど200年前の1817年秋、名古屋に滞在していた葛飾北斎は、本願寺名古屋別院（西別院）の境内に敷いた120畳の和紙に大達磨の絵を描きました。北斎かぞえ58歳。その目的は、「販促活動」。1812年に初めて名古屋（牧墨僊宅・現ラシックの場所）に滞在した際に下絵を描き、後にジャポニズムとしてモネ、ドガ、セザンヌ、ゴーガンにも影響を与えた、名古屋の版元・永楽屋から1814年に刊行された絵手本・デッサン集「北斎漫画」の、出版記念のプロモーションでした。多くの庶民が見物し、北斎のパフォーマンスに驚愕した記録が残っています。

200年前の当時を、尾張藩士高力猿猴庵の資料を元に忠実に再現しようと、春に西別院を中心とする実行委員会が立ち上がり、広報面で新聞広告、中日新聞クラウドファンディング「夢チューブ」などを活用。当日は大盛況のもと、歴史の再現を一目見ようと訪れた約2500人の観衆で西別院の寺町は賑わいをみせた。

（広告三部 長津政宏）

11月17日付中日新聞市民版15段→



約2500人の観衆が見守る中、200年前と同じ地・西別院の境内で、再現が行われました。



クラウドファンディング「夢チューブ」でPR
9月18日~10月31日実施



11月24日付中日新聞朝刊1面

クラウドファンディング「夢チューブ」を使用して、事前PR! 再現の翌日には、中日新聞の1面でイベント実施が紹介されました。また、CHUNICHI WEBで動画もご覧いただけます。→

